

交通安全 コラム



山形県は車社会？

県内や町内の運転免許証 保有数を見てみよう！

一家に1台は車があるといわれる近年。地方は車社会とよく言われますが、実際は県内でどれほどの方が運転免許証を所持しているかご存知ですか？金山町の運転免許証保有者数を確認し、交通安全について考えてみましょう。

山形県と金山町の運転免許保有状況

山形県警察本部の調査によると、令和5年12月末時点での県内の運転免許証保有者は73万8627人にのびります。これは当時の山形県の運転免許証持つことが出来る年齢（適齢人口）の人の約80・4%にあたり、県内に住む8割以上の方が運転免許証を保有していることになります。下記の図①と図②を見比べてみましょう。金山町の運転免許証保有率は県内全体と大きな差はありませんでしたが、やはり町内のほとんどの

方が免許を保有しているという結果になりました。

自分や家族を守るために「交通安全」

町内の運転免許証の保有率は81・8%。私たちの生活に欠かせない交通手段だからこそ、正しい知識と技術を身につけ、安全に運転する事が大切です。特に冬場は路面状況が悪くなるほか、降雪などにより視界が悪くなる場合が多いです。冬場の運転は特に次のことを意識して運転しましょう。

冬道の安全運転5則

- ① 雪道での運転スピードは、夏場より10キロ以上減速する
- ② 車間距離は、路面が乾燥している時の2倍以上とる
- ③ 急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどの急激な操作を避ける
- ④ 視界が見えにくい場合は、前方をよく見て早めに徐行する
- ⑤ 追い越しはなるべくしない

誰もが交通事故を起こそうと思って起こしているわけではありません。ちょっとした気のゆるみや不注意で事故は発生します。ご自身やご家族のためにも、無事故・無違反で安全な運転にご協力をお願いします。

【問合せ】 役場町民税務課 くらし安全係

☎2915609

「わたしと金山」

No.26

林 寛治

蔵史館

雄勝金山線と十日町通りの交わる角地に旧金山商工会事務所がありました。が、1990年代に入って雄勝金山線の道路再整備の都合で商工会事務所の後継移転先がもとめられていました。一方町側でも街並みづくり関係の資料館を検討中であつたことから、通称十日町通り（旧羽州街道）に面した2軒手前のマルイ家の土蔵が候補となりました。明治30年代に建てられた「対の土蔵の、前蔵は味噌・醤油・酒などの食品と建物補修のための木材などをしなう生活の雑倉庫として、後蔵は戦争直後まで米蔵として使用され、十日町通りを隔ててマルイの岸家主屋と向かい合つて残されていました。これら2棟の土蔵を街並み景観に欠かすことのできない財産として、マルイの岸伊和男氏にお願いして快諾を得、町が買い取つて「街並みづくり資料館」として再生することになったのです。とはいえ「街並みづくり資料館」という漠然とした展示室では箱物の静態保存になりかねないという危惧もありましたから、前蔵を金山商工会事務所に使用し、後蔵を展示・講演・演奏会など多目的

の小ホールとして活用する目的で計画が進められました。「蔵史館」という洒落たネーミングになったことは竣工後に町から聞きました。

町から相談されて蔵史館の設計は金山町教職員住宅と金山町老人福祉センターを設計した、私の大学同期10人の一人、畏友の林哲也君との協同で行いました。

旧蔵は前蔵・後蔵共に部分的に中2階をもつ天井の高い平屋空間でしたが、長年の豪雪や降雨によって院内石を用いた基礎の不同沈下が進み、その上のケヤキ・クリの柱材が土台の朽廃でさらに沈下して、根継ぎが全面に行われており、かなり傷んだ状態にありました。新たに前蔵の1階に事務所、そして2階を会議室とするなど機能上の必要から、街並み景観に調和する範囲で前蔵の基礎の笠上げを行い、建物高さを1m高くしました。十日町通りから裏の旧道まで通り抜けができる畑であった外構部は、5〜6台の駐車スペースを確保するため、蔵の平面位置も若干移動しています。

ヨーロッパの都市や集落では歴史的な中心市街地区の伝統建築を保存再生することが当然のことですから、歴史的・伝統的外観を厳格に維持しながらも、内部は個人の意思で現代の生活に適合するようにある程度自由な改造が可能

お得な支援制度をご案内！

町では交通安全を目的として、70歳以上の方を対象に2つの支援制度を実施しています。

かねやまサポカー補助金

先進安全装置付きの車両購入で最大10万円を交付します。先進安全装置付きの新車購入の場合は10万円、新古・中古車・先進安全装置の後付けの場合は最大5万円を交付いたします。

金山町高齢者運転免許自主返納支援事業

警察へ免許返納した方に山交バスや町バス・町デマンドハイヤーで利用できる共通回数券1万1千円分を交付します。

※交付には条件がございます。
詳しくは役場町民税務課までお問合せください

図①

県内運転免許証保有数（R5.12月末時点）				
16歳～24歳	25歳～64歳	65歳以上	合 計	県内 適齢人口
46,733人	454,329人	237,565人	738,627人	918,418人

※複数の免種を所持している方の重複計上はしていません。

図②

金山町運転免許証保有数（R5.12月末時点）				
16歳～24歳	25歳～64歳	65歳以上	合 計	町内 適齢人口
194人	2,018人	1,283人	3,495人	4,275人
免許証 保有率 (合計÷適齢人口)	高齢者 (65歳以上) 比率	免許証 保有率 県内順位	65歳以上高齢者のうち 75歳以上173人、 85歳以上71人	
約81.8%	約26.5%	13位		

※引用元「山形県の運転免許保有状況」山形県警察本部

です。公共施設を含め、モダンで洗練されたインテリアをもつ建築が数々見られます。

しかし静かな山間の町としての金山町の場合は、「町の先達がつくり上げたささやかな遺産を素朴に再生しても新たに機能するのだ」ということを改めて発信することを目的とし、内部については金山杉を質・量共に多用して、落ち着きと暖かさを与えています。また既存の立派な漆喰塗り土蔵窓は残しつつ、（蔵としての）耐火機能のない新たな窓を適宜設けています。約百年前の棟梁が竣工時に見た室内風景は、外に向かって開放された開口部が変わったくらいで、補強金物以外の構造架構は変わっていません。

後蔵は多目的に活用できる交流空間として、婦人会の方々が上手く活用されているのを時折拝見しております。役場庁舎の町民ホールに呼応した、金山らしい自然の趣を意識したホールです。キャットウォークに見せた台を展示の見切りするとともに何気なく興行を強調しています。私は残念ながら蔵史館での音楽会に出席する機会がこれまでありませんが、展示の方は妻アメリーのキルト展で経験しました。日本古着からつくられたキルトが蔵の材質に良く調和していると感じました。2階の一部は展示空間です。絵画などの展示には壁面が少ないですが、小物の工芸品などが似合うそうです。蔵史館」の益々の発展を祈念します。



前蔵旧状



前蔵改修後